

令和 8 年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育ステージ	早 期：収穫期 早 植：糊熟期～収穫期 普通期：乳熟期～糊熟期
生育概況	早 期：「コシヒカリ」の成熟期は平年より 2 日程度遅れた。収量は平年並で、品質は白未熟粒や胴割粒の発生が少なく、平年よりやや優れる見込み。 早 植：出穂期は 3 日程度遅れ、成熟期も 2～5 日遅れる見込み。いもち病や内穎褐変病の発生が散見されている。 普通期：出穂期は概ね平年並であったが、成熟期は 2～5 日遅れる見込み。内穎褐変病、斑点米カメムシ類の発生が散見されている。

1 気象経過 (前橋地方気象台の気象データ、9 月は第 3 半旬までのデータ、参考資料参照)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
気 温 (平年差)	+2.3℃	+1.7℃	+0.0℃	+1.6℃	-0.2℃	-1.1℃	—
降 水 量 (平年比)	110%	54%	187%	103%	161%	165%	—
日照時間 (平年比)	89%	124%	94%	111%	87%	26%	—

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培 (6 月 15 日以前の田植)

早期栽培「コシヒカリ」の成熟期は平年より 2 日程度遅れ、収穫は 60%程度のほ場で完了している。収量は平年並、品質は白未熟粒や胴割粒の発生が少なく平年よりやや優れる見込み。

早植栽培の生育ステージは糊熟期～収穫期となっている。出穂期は平年より 3 日程度遅れ、成熟期も 2～5 日程度遅れる見込み。茎数や粒数は平年並に確保されている。曇雨天による登熟不良、刈遅れによる品質の低下が懸念される。

イ 普通期栽培 (6 月 16 日以降の田植)

生育ステージは乳熟期～糊熟期となっている。出穂期は概ね平年並であったが、成熟期は 2～5 日遅れる見込み。地域によってばらつきはあるが、茎数は平年並～やや多く確保されている。曇雨天の影響による登熟不良、収量・品質低下が懸念される。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

ア 早期・早植栽培

いもち病、紋枯病、内穎褐変病、稲こうじ病の発生が平年より多くみられる。また、斑点米カメムシ類の発生も確認され、品質低下が懸念される。曇雨天の影響で登熟不良がみられ、一部ほ場では倒伏や刈遅れによる胴割粒、穂発芽の発生が懸念される。近年発生が多かったイネカメムシは発生が少なかった。

イ 普通期栽培

いもち病、紋枯病、内穎褐変病の発生がみられ、一部で斑点米カメムシ類の発生も確認されている。

(3) 作況等の調査結果等

ア 作況等の調査結果（表 1 参照）

県平均の出穂期は 8 月 16 日（平均比+3 日）であった。出穂後 15 日の穂数は 393 本/㎡（同 103%）、籾数は 30,735 粒/㎡（同 104%）であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

(ア) 稲麦研究センター（6 月 25 日移植）

「あさひの夢」の出穂期は 8 月 30 日（過去 10 カ年平均比±0 日）であった。

(イ) 東部地域研究センター（6 月 3 日移植）

「あさひの夢」の出穂期は 8 月 22 日（過去 10 カ年平均比+5 日）であった。

表 1 水稲作況等調査結果（地域別・作期別）（ ）内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後 40 日調査		出穂期 月 日	出穂後 15 日（暫定）		
		草丈 cm	茎数 本/㎡		カ所数	穂数/㎡	籾数/㎡
県	6/8(+2)	62.0(103)	430(93)	8/16(+3)	12/15	393(103)	30,735(104)
中 部	6/17(+2)	63.1(99)	381(86)	8/23(+3)	2/4	359(94)	38,332(99)
西 部	6/17(+7)	64.6(99)	460(103)	8/18(+2)	3/4	396(104)	33,827(105)
北 部	5/22(±0)	50.9(109)	481(94)	8/7(+1)	4/4	438(111)	27,902(105)
東 部	6/18(+2)	74.6(106)	376(94)	8/20(+6)	3/3	353(96)	33,024(105)
早期・早植	6/1(+4)	53.9(108)	457(93)	8/10(+3)	10/10	390(101)	29,455(102)
普通期	6/21(-1)	67.5(100)	404(94)	8/29(+1)	2/5	409(112)	37,140(114)

注 1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。

2) 移植期欄の（ ）内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。

3) 8 月 15 日現在で調査時期となったほ場のみの値で、カ所数欄は「調査カ所／設置カ所数」を示す。

4) 早期・早植：6 月 15 日以前の田植。普通期：6 月 16 日以降の田植。

(4) 作柄のまとめ（表 2）

各地域の作柄は、中部「並」、西部「並」、北部「並」、東部「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表 2 地帯別作柄概況 () 内は農畜産課・地域農業課

地域別	作柄	概 況
中 部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	・早植栽培：黄熟期～収穫期。日照不足及び低温の影響で、出穂期は平年並～5日程度遅れた。いもち病、紋枯病、内穎褐変病の発生が散見され、一部ほ場では倒伏がみられる。 ・普通期栽培：乳熟期～糊熟期。出穂期は平年並～3日程度遅れた。ほ場内の生育ムラが平年より多く、成熟期の遅れが予測される。いもち病や紋枯病の発生が平年より多い。
西 部 (西部) (藤岡) (富岡)	並	・早植栽培：登熟後期～収穫期。出穂期は平年並～3日程度遅れ、成熟期も同程度遅れる見込み。内穎褐変病等による籾の汚れが平年より多い。地域によっては収穫が始まっているが、ほ場の条件によって収穫の遅れが懸念される。 ・普通期栽培：乳熟期～黄熟期。出穂期は平年2～4日程度遅れ、成熟期も同程度遅れる見込み。登熟のばらつき、登熟不良による収量・品質低下が懸念される。
北 部 (吾妻) (利根沼田)	並	・早植栽培：黄熟期～収穫期。出穂期は平年並であったが、成熟期は遅れる見込み。日照時間が少なく、降水量が増えたことで、稲こうじ病や内穎褐変病の発生が一部みられる。降雨による刈り遅れから胴割粒の発生が懸念される。
東 部 (東部) (桐生) (館林)	並	・早期栽培：収穫期。出穂期は平年並、成熟期は平年より2日程度遅れた。収量は平年並、品質は白未熟粒や胴割粒の発生が少なく、平年よりやや優れる見込み。 ・早植栽培：糊熟期～収穫期。出穂は平年並であったが、成熟期は2～5日程度遅れる見込み。曇雨天の影響で、紋枯病・いもち病が平年よりやや多い。斑点米カメムシ類の発生が多く品質の低下が懸念される。 ・普通期栽培：乳熟期～糊熟期。出穂は平年並であったが、成熟期は2日程度遅れる見込み。穂数は平年より少なく、収量も平年よりやや少ないと見込まれる。一部地域では内穎褐変病、斑点米カメムシ類の発生が確認されている。

3 技術対策

- (1) 落水までは間断かん水を継続し、台風やフェーン現象発生時は深水管理を行うなど、適切な水管理により根の活力維持と高温・乾燥害の軽減を図る。
- (2) 出穂後の積算気温や帯緑色籾歩合、水分等を参考に適期収穫を徹底し、刈遅れによる品質低下を防止する。
- (3) 既に収穫期となっているほ場では、天候回復後、稲体の乾燥状況を見極めて収穫する。
- (4) 倒伏ほ場は速やかに排水し、成熟状況に応じて早めに収穫する。また、穂発芽がみられる部分は可能な限り別収穫とする。
- (5) 収穫後は速やかに乾燥機へ搬入するが、急激乾燥は行わず、初めは通風のみの乾燥で水分むらムラの解消を図り、その後は穀温 40℃以下で乾燥作業を基本とする。特に降雨、曇天の影響により籾水分が高い場合には乾燥条件に十分注意する。
- (6) 架干し稲は穂発芽や胴割粒の発生を防ぐため、乾燥後速やかに脱穀する。
- (7) 調製は丁寧に行い、稲こうじ病や斑点米の混入防止を徹底するとともに、必要に応じて色彩選別機を活用し品質向上を図る。
- (8) 収穫後は早めに耕起してひこばえの発生を防止するとともに、ワラの腐熟促進を図る。
- (9) 農薬等の使用履歴を適切に記帳・確認し、適正な生産管理を徹底する。
- (10) むかるみや倒伏条件下、高水分でのコンバイン収穫作業は傾斜地での転倒や、詰まったワラを取り除く際の巻き込まれ事故等の危険が高まるため、安全確認を徹底する。

本年は 8 月下旬以降の日照不足や降雨の影響により品質低下が懸念されます。
ほ場の状況を確認し、適期収穫と丁寧な乾燥・調製により品質を確保しましょう。

《参考資料》

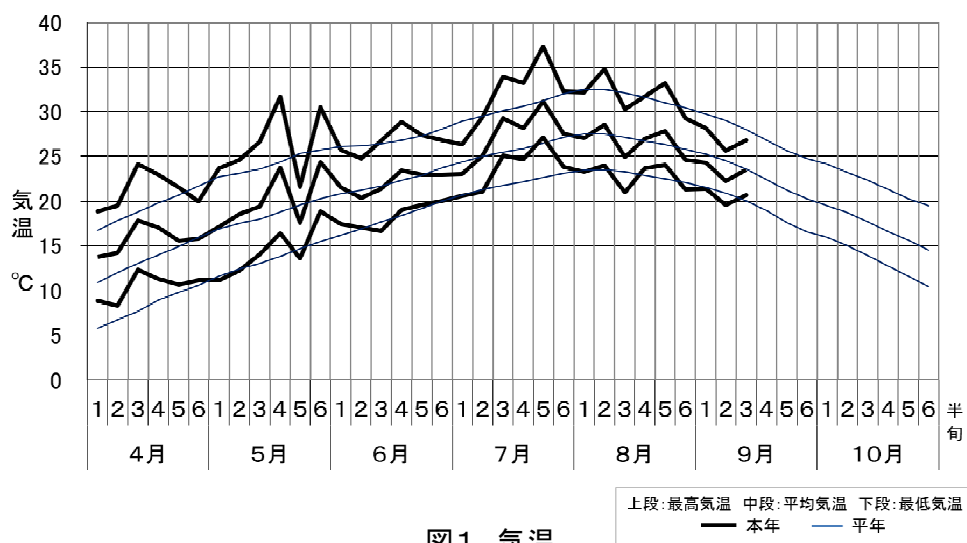


図1 気温

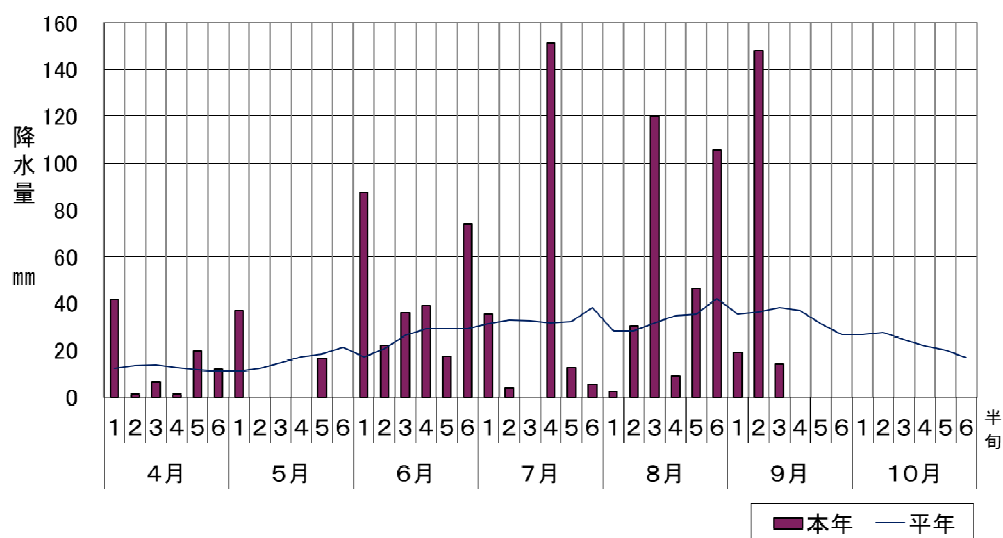


図2 降水量

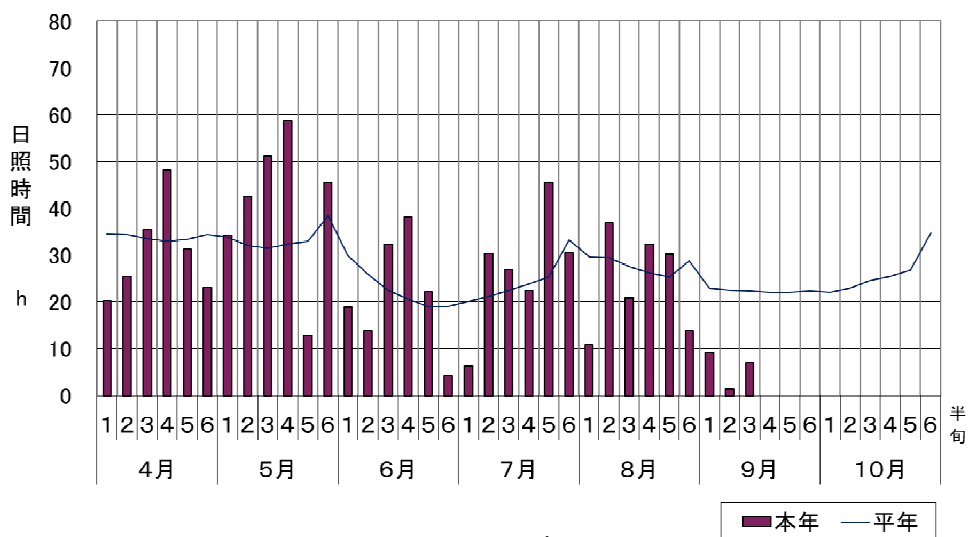


図3 日照時間